

指導資料



鹿児島県総合教育センター

音楽 第39号

—小学校対象—

平成22年4月発行

〔共通事項〕を生かした小学校音楽科の指導

今回の学習指導要領の改訂にあたり、音楽科では改善の基本方針の中に、「小・中学校においては、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する」ことが示された。子どもが、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりするためには、表現と鑑賞の活動の支えとなる〔共通事項〕を生かし、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取らせることをより意識した授業を行っていく必要がある。

そこで本稿では、今回新設された〔共通事項〕をどのように授業に生かしていくかを「A表現」の領域に絞り、事例を交えながら述べる。

1 〔共通事項〕について

新学習指導要領では、「A表現」「B鑑賞」の領域うち、「A表現」の領域が歌唱、器楽、音楽づくりの三つの活動に分けて示された。これによって歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞のそれぞれの活動ごとに指導項目が示され、それぞれの活動でどのように

学習を進め、また、どのような能力を身に付ければよいのかが、より明確になった。

このように、各活動が分けて示されたために、それらを結ぶもの、あるいはそれらの基盤となるものとして位置づけられたのが〔共通事項〕である。

〔共通事項〕は、「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次のア、イの事項を指導することとしている。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

音楽を形づくっている要素のうち、(ア)は音楽を特徴付けている要素、(イ)は音楽の仕組みを指す。

イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

イについては、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を音楽の学習活動の中で、実際に生かすことのできる知識として理解することの重要性を述べている。

特に、アで示されている音楽を形づくっている要素を整理し、図示すると次のように表すことができる。

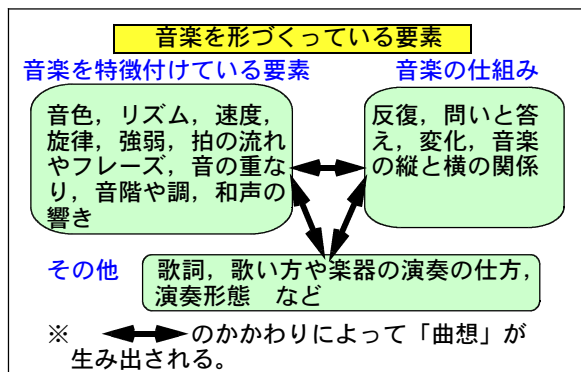


図1 音楽を形づくっている要素

2 【共通事項】を生かす教材分析

取り扱う楽曲について、図1で示した音楽を形づくっている要素に着目し、その働きを知ることは、歌唱や器楽において表現を工夫していくための重要な手がかりとなる。つまり、音楽を形づくっている要素を意識して、自分なりの思いや意図に沿った表現にしていくことができるようにしていくことが大切である。そのためには、まず、教師が取り扱う楽曲、つまり教材について、音楽を形づくっている要素を意識し、より細かな分析を行うことが重要である。教材分析を行う際の主な視点と留意点を以下に示す。

【教材分析の視点】

- 全体的な曲想
- 音楽を特徴付けている要素
- 音楽の仕組み
- 歌い方や演奏の仕方、演奏形態
- 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語
- 歌詞や歌詞の表す情景や様子
- 楽曲の背景（作曲者やエピソードなど）

【教材分析の留意点】

- ・ 視点で示した各項目は、相互の関連性を踏まえて分析する。
- ・ 教師なりの分析と同時に、現時点での子どもの実態から、子どもが感じることや気付くことを予測し、子どもの言葉を要素と結び付けるなどの適切な助言ができるようにしておく。
- ・ ねらいに即して、感じ取らせたり気付かせたりしたい要素等をおさえる。

3 【共通事項】を生かした授業の留意点

教材分析を基に、授業においては、子どもが音楽を形づくっている要素を意識し、思いや意図をもって表現する授業を展開していくようにする。そのためには、次のような点に留意することが大切である。

○楽曲との出会い・見通しをもつ場では

- ・ 曲を聴いて感じたこと、気付いたことを基に曲の感じと曲の特徴（音楽を形づくっている要素）を関連付け、言語活動を生かして自分なりの思いや意図を明確にさせる。また、子どもの思考の手助けとなるよう、曲の感じを表す言葉や音楽を形づくっている要素を表やカード等で掲示しておく。

○追究活動の場では

- ・ 思いや意図を持続させ、ねらいに沿った追究活動を進めるために、演奏ごとにポイントを振り返るワークシートの活用やグループや全体での意見交流を効果的に取り入れる。

○まとめ・振り返りの場では

- ・ めあてや活動のポイントを基に、視点を与えて相互鑑賞や意見交流を行わせる。

4 【共通事項】を生かした授業の実際

【共通事項】を生かした授業の実際を第3学年の実践例で示す。

題材：ふしのとくちょうをかんじとろう
(全10時間)

教材：「バード ウォッチング」
(3時間扱い)

(1) 教材について

「バード ウォッチング」は、シンクペーションのリズムや休符が効果的に用いられたリズムカルな前半部と、順次進行を中心とした伸びやかな後半部とが対照になっており、前半部と後半部を歌い合わせ、旋律の重なりを楽しむことができる構成になっている。旋律の違いに気付き、歌い方を工夫したり、旋律の重なりのおもしろさを感じ取りながら歌ったりするのに適した教材である。

以下、教材分析のポイントを基に分析・整理した。

<全体的な曲想>

- ・ 全体的に軽快で明るく、体を自然に動かしたくなるような曲
- ・ 前半部と後半部の重なりが面白い曲

<音楽を特徴付けている要素>

- ・ リズム ・ 拍の流れやフレーズ
- ・ 旋律 ・ 音の重なり

<音楽の仕組み>

- ・ 反復 ・ 変化 (・ 音楽の縦と横の関

関 ----- 高学年で示される内容)

<歌い方や演奏の仕方、演奏形態>

- ・ 歌とリコーダー、パートナーソング

<音符、休符、記号や音楽にかかわる用語>

- ・ 8部休符 ・ 2部休符
- ・ ふ点2分音符 ・ パートナーソング

<歌詞や歌詞の表す情景や様子>

- ・ バードウォッチングの意味
- ・ 川のそばの雑木林
- ・ 小鳥たちが枝から枝へ遊ぶ様子
- ・ 青い羽根、黄色い胸

<楽曲の背景>

- ・ 本教材では特に扱わない。

(2) 本時の目標 (4/10)

ア 各グループで協力して、曲の感じに合わせて楽しく演奏することができる。

イ 旋律の特徴を感じ取って、演奏の仕方を工夫することができる。

(3) 実際

※ 下線 (文字)は〔共通事項〕と関連のある箇所

進	時間	主な学習活動	種	教師の働きかけ (◆評価)
導	7分	1 「バード ウォッチング」を歌う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく学習する雰囲気をつくるため、身体表現を取り入れる。また、<u>2回目は前時の学習で工夫した歌い方に気を付けるよう助言する。</u> ・ 本時は、前時での表現の工夫を生かしリコーダーで演奏することを確かめる。
入		2 本時のめあてを確かめる。 曲の感じに合わせてえんそうを工夫しよう。		
展	33分	3 後半部を、リコーダーで練習する。 (1) リズム打ち、リズム唱、階名唱、運指の練習をする。 (2) 全員でリコーダーの旋律を確かめながら演奏する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーを演奏する時の基本の姿勢を確認する。また、黒板に拡大楽譜を掲示し、前を向いた姿勢で演奏できるようにする。 ・ <u>拡大楽譜を見ながらリズム唱や階名唱をしたり、運指の練習をしたりして全員でゆっくりと演奏を合わせることができるようにする。</u> ・ 第1時に子どもが<u>曲を聴いて、感じたことや気付いたことを</u>掲示し、<u>曲の感じと旋律の特徴を</u>関連付けて考させるようにする。また、<u>歌唱表現の工夫も</u>ヒントにするよう助言し、<u>表現への思いや意図</u>をもてるようにする。 ・ リコーダーを中心に、<u>演奏のポイント</u>を確かめながら活動を進めていくことを確認する。 ・ 教師は、グループの様子を見取りながら、適切な助言や励ましを行う。 ・ 聴き合う際は、<u>演奏のポイント</u>を基に聴く観点を確かめるようにする。 ◆ <u>旋律の特徴を感じ取って、演奏を工夫することができたか。</u> ◆ <u>グループで協力して、曲の感じに合わせて楽しく演奏することができたか。</u>
		4 曲の感じに合わせて演奏するにはどうすればよいか話し合う。		
		5 グループに分かれてリコーダーの演奏の仕方を工夫する。		
開		6 互いの演奏を聴き合う。		
終末	5分	7 本時の学習を振り返る。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてを基に、できるようになったことや工夫したことなどを振り返らせるようにする。 ・ 感想を基に次時の学習への意欲を喚起する。

鹿屋市立鹿屋小学校 中村剛教諭の実践を基に作成

(4) 授業の考察

下記のア、イの2点について述べる。

ア 曲の感じと曲の特徴との関連付け

本時の学習のめあては、曲の感じに合わせて演奏を工夫することである。ここで重要なのは、子どもが曲の感じをとらえ、その感じを表現に生かすため、どの要素を工夫していけばよいか明確な思いや意図をもつことである。

子どもたちが前時の学習で感じ取った曲の感じや曲の特徴を以下に示す。

【前半部】

《曲の感じ》

楽しい、のりなり、明るい、おどりたくなる、元気な、にぎやかな、はねるような、ピクニックをしているような、トランポリンでジャンプしている

《曲の特徴》

休符がある、長い音が少ない、8分音符がたくさんある、音が急に上がったり下がったりしている

【後半部】

《曲の感じ》

なめらかな、ゆれているような、ゆっくり流れているような、スケートをしているような、森の中にいるような、きれいな鳥の声が聞こえるような、さわやかに目覚めたような

《曲の特徴》

2分音符がある、途中で休符がない、音がなだらかに繋がっている、息つぎのマークがある

日頃からよく発表することもあり、子どもたちは曲の感じを自分なりの言葉で表すことができた。教師は、子どもから出た曲の感じを取り上げ、「なぜ（どこの部分から）そう感じ取ったか」を問い、曲の特徴と関連付け、拡大楽譜で確認させた。以下に、教師と子どもの発言の一部を示す。

C：ゆっくり流れているような感じがします。
T：なぜそう感じたのかな。
C：一つの言葉を長く伸ばして歌うからです。
T：なるほど。こ～と～り～た～ち～が～。

と伸ばしているね。楽譜ではどの部分かな。
C：伸ばす音符が多くて、途中で休みがありません。
T：確かにそうだね。二部音符だね。すごい。

このように、曲の感じと曲の特徴を関連付けさせることにより、表現に生かす際にどのような工夫をしていくのか、自分なりの思いや意図をもたせることができた。本時では、前時の歌唱での表現の工夫もヒントに考えさせ、後半部のなめらかな感じの部分をリコーダーで表現する場合のグループ活動のポイントを話し合っ、次のように絞った。

- ・ 2分音ぶをしっかりとのぼそう。
- ・ 息つぎまで音をつなげよう。

これにより、具体的な活動の目標をもたせることができた。

イ 表現活動の実際

グループ活動では、演奏と話し合い（活動のポイントに沿った反省）を交互に行わせることで、最後まで視点を意識して、表現を工夫することができた。また、聴き合う活動でも「流れるようで、ロマンティックだった。」「ちゃんと音が息つぎマークのところまでつながっていた。」など、曲の感じや曲の特徴をとらえて感想を述べることができた。

本稿における第3学年の実践は、一例である。子ども一人一人が音や音楽を知覚し、思考・判断しながら思いや意図をもって表現することができるように、〔共通事項〕を生かした音楽科の授業実践を重ねていくことが重要である。

〔参考文献〕 文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」平成20年（教職研修課）